

第11回東大阪市中心企業振興会議

次第

と き 平成28年11月8日(火) 午後6時30分
と ころ クリエイション・コア東大阪 南館3階

1 開 会

2 議事

(1) 各部会における報告について

(2) その他

3 閉会

事業承継支援のあり方

事業承継支援施策（案）

報告 1

資料 1

経営者の高齢化/事業の行き詰まり等

経営からの引退、事業承継・事業終了の検討

1

- セミナー・相談
- ・情報提供
- ・早期準備の必要性

経営者の選択肢

①事業承継

②廃業

③（望まざる）事業継続

後継者確保

後継者確保できず

親族内承継

親族外承継
（第三者承継）

事業売却

事前準備（計画的
取組）**あり**
※財産・経営資産
の整理等

事前準備（計画的
取組）**なし**

数年間の社内勤務

内部昇格
（従業員等）

外部招聘

資産超過での廃業

債務超過での廃業
（≒倒産）

2

1

3

事業承継支援施策（案）

- セミナー
- ・事業承継準備（事業承継計画書策定など）
- ・後継者育成
- 税制相談
- 法務相談

- マッチング
- ・売り手と買い手をつなぐ
- 創業塾（市等）との連携
- ・起業意欲のある起業家とつなぐ

- セミナー・相談
- ・廃業準備
- ・伝える化（情報提供）
- 匿名性に配慮した専門家による支援

※注 技術継承及び若手の人材確保については、資料3を参照

出所：2014年版中小企業白書（P301）をもとに作成

事業承継支援施策 ～モノづくり機能の維持に向けて～

1 相談窓口の強化

- 公益財団法人東大阪市産業創造勤労者支援機構のワンストップ機能を強化し、様々な支援機関（中小機構、大阪府プロフェッショナル人材戦略拠点、大阪商工会議所、東大阪商工会議所、金融機関等）の事業承継機能を収集・分析し、中小企業・小規模事業者の実情にあった適切な案内を行っていく。

2 事業承継セミナー開催

- 現経営者向けのセミナーの開催（経営の見える化、事業承継計画の策定、後継者育成など）
- 後継者（次代の経営者）向けのシリーズ型セミナーの開催。
（会員制による定期的なセミナー、年度毎にメンバーを入れ替え、修了生のネットワーク構築）

3 フォローアップ調査と事例レポートの作成

- 「東大阪市内の事業承継の実態に関する調査」（平成28年3月、東大阪市）のフォローアップ調査を実施。
（ターゲット：高齢経営者×事業継続意思なし、M & A 希望企業や廃業予定企業など）
- 東大阪市内中小企業の廃業企業へのヒアリング調査について検討し、可能なケースがあれば調査を実施。
- 事例レポートの作成及び公表。

円滑な事業承継に向けて、セミナーやワンストップコーディネーターの窓口相談、企業訪問により経営者及び後継者がともに早めの対策を進めることを促進。

事業承継現場の声を継続的に収集・蓄積していくとともに、事例集を作成し、情報発信を行っていく。

技術継承支援施策（附帯意見）

事業承継とは、現経営者から後継者へのバトンタッチを行うことで、企業が培ってきた様々な財産をスムーズに引き継いでいくことが、承継後の経営安定のためには重要である（ミラサポHPより一部抜粋）。東大阪市は、基盤的技術産業を中心に多種多様な業種のモノづくり企業が集積し、それらの企業が有機的な分業システムによりフレキシブルな生産ネットワークを築き上げていることで全国的に知られるモノづくりのまちである。このような企業間取引ネットワーク・集積メリットを通じて、「なんでもつくれる東大阪」として国内外から定評があり、集積の機能を維持していく必要がある。

< 凄技を発掘し、積極的に情報発信 >

- モノづくり企業やそこで働く人材を通じて生み出される「凄技」（そこでしかできないような高度な加工技術など）を継承し、東大阪のネットワークの機能を維持・継続していく。
- このため、そのような技術に光を当てることにより、技術はもとより、モノづくり企業そのものの継続にもつなげるべく、市内モノづくり企業の「凄技」について調査を行い、技術交流プラザなどで企業情報として発信していくといった施策に取り組むべき。

< 若者を中心にモノづくりを担う人材確保 >

- 一方で、モノづくり技術を担う次世代の人材を確保していくことも事業の継続・技術の継承といった側面から、重要な課題である。
- このため、若者などにモノづくり企業の魅力・働き甲斐などを正確に伝えていくような施策をより一層強化していくことにより、若者などの就職するきっかけづくりにつなげ、将来の東大阪のモノづくりを担う人材の確保の一助とする。

地域商業の魅力と活力の再生検討部会（報告）

1 現状と課題（部会の設置目的）

本市商業集積地が抱える主な共通課題として、経営基盤の近代化の遅れと消費者ニーズへの不適合による小規模店の減少、経営者の高齢化と後継者難による廃業（地域商業の衰退）、商店街の組織力低下などが挙げられる。

これらの課題に対して、地域商業を活性化し、持続可能なものとするため、また、商業者間の連携や行政支援施策の再構築などを検討の方向性とした議論を行うため、当部会を設置している。

今年度は、地域商業振興の基本目標と基本方向を指し示した「東大阪市商業振興ビジョン」の策定から前半期の5年（平成22年～平成27年）を経過したことから、今期商業部会において、ビジョン策定後の商業振興施策、支援メニューの成果と課題を検証し、ビジョン後半期（平成28年～平成32年）のための商業振興施策の方向性検討を目的とした議論を行っているところである。

2 議論の進め方

第3回：「若手商業者支援の成果報告と課題」「東大阪市商業振興ビジョンを踏まえた個店支援」について

東大阪市商業振興ビジョン（以下、「振興ビジョン」）に基づきコーディネート事業を受けて実際に活動する若手商業者グループ「若江岩田きらりプロジェクト」による今年度の取り組みが終了し、具体的な課題等が浮き彫りになったことを事例に質疑や意見交換を行った。その後商業集積地の活性化につながる推進体制として、他市のまちづくり会社や起業・チャレンジセンター、事業承継センターの取り組み事例を事務局より資料を基に説明した。それを受けて、商業振興の推進体制強化に向けた関係機関の役割等について議論、意見交換を行った。

3 議論のポイント

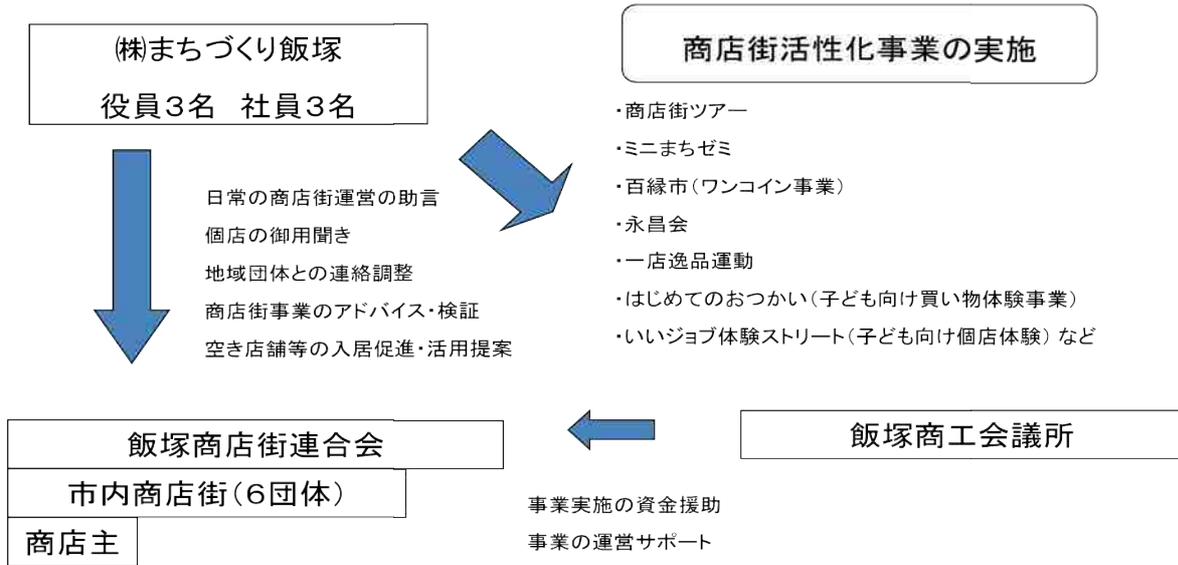
- 振興ビジョンに基づくコーディネート系事業の実践を通じて、商業振興のサポート体制があったからこそ、やる気のある若手商業者の発掘や応援ができており、既存の商店街組織の枠を超えた、商業集積地全体の活性化を目指す新しい組織（若江岩田きらりプロジェクト等）の活動につながっている。商業振興サポート体制の強化と支援メニューづくり・アピールは、今後も行政として引き続き継続していくべきである。
- 今年度のコーディネート事業では、コンサルティング会社が若江岩田の若手商業者グループの活動や方向性の支援を行った。若手商業者にとっては、自分たちがやりたいことができるようにフォローしてくれ、コンサル側からの提案がなかったことがかえって自分たちの思い通りの事業ができるなど、良い結果につながった。また、コンサルティング会社はチラシ作成のバックアップや消費者アンケートの実施、議事録作成等の事務的なサポートに徹したことも人材不足の若手商業者グループにとっては好都合だった。そういった形で、いろいろなところに顔が利いたり繋がりがもてたりする人材が商業活性化には必要で、そういった人づくりが今後の課題である。

- ▶ 商業振興に取り組むには、組織づくりや人材づくりが重要。リーダーだけで組織をまわしその人が抜けたら何も活動できなくなるというのではだめで、様々な人が関わって動かしていく組織をつくることが求められる。

【参考】

行政および商業者に、第三者的機能を加えて商業振興のサポートを実施している他市事例について

(図：飯塚市の事例)

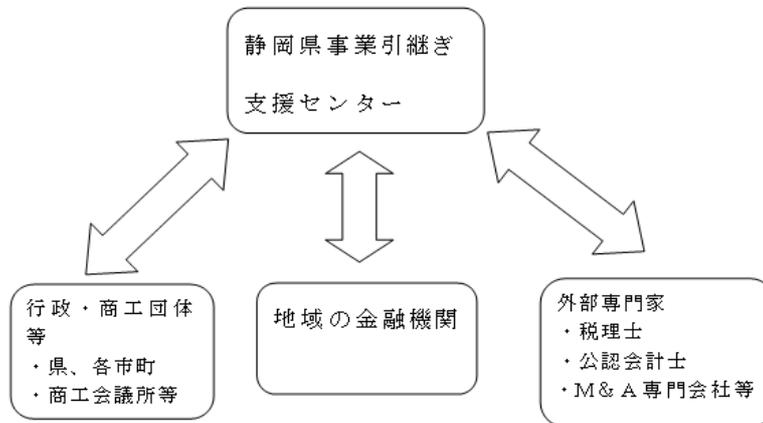


●事業概要●

(株)まちづくり会社飯塚を立上げ、商店街活性化担当マネージャーを雇用し、商店街への「御用聞き」等を行いながら、商店街活性化を支援。

(実施期間：平成25～27年度。27年度には商店街活性化マネージャーが退社)

(図：静岡県事業承継支援センターの事例)



●事業概要●

静岡県における事業承継支援のプラットフォームとして、行政や商工団体、金融機関等関係機関と連携しながら中小企業者経の経営課題解決に向けた支援を行っている。部会で紹介した事例では、乾物、雑穀等の小売店店主の第三者への事業承継を3年かけて関係機関も交えながら継続的に支援をし、実現にこぎつけた。

事例から見るサポート機能における主なメリット

- ・第三者が支援に加わることにより、商店街等で事業を実施する際の、労力や人材不足などを補うことができる。
- ・中立的な立場で各商業者へのヒアリング等を行うことにより、合意形成を促進したり緩衝材としての役割を果たしたりすることができる。
- ・他市事例や住民視点等の収集および商業者への紹介、取り込みが可能となる。

事例から見るサポート機能における主なデメリット

- ・人件費、活動拠点等の比較的大きなコストが必要となる。
- ・目に見える結果を導くまでに、長期的な支援が必要。さらに、実を結ばず途中でうまくいかなくなることもある。
- ・関係を築いてきたマネージャーがいなくなると、事業等の運営できず、活性化前の活動状況に戻ってしまう。
⇒マネージャー依存ではなく、商業者が積極的に事業に係わりやすい組織検討の必要性

4 今後のスケジュール

平成29年1月（予定） 第4回部会の開催 ビジョン後半期における施策の方向性検討
(最終報告案の検討)

農業振興検討部会のアンケート実施結果

配送先 送付	一般市民向け (無作為抽出)	一般市民向け (消費者団体)	一般市民向け (老人大学)	農家向け	市政モニター
発送数	600 人	50 人	80 人	843 人	モニター数 (253 人)
実発送数	594 人 (6 通宛先なし)	31 人 (8/1 実施)	60 人 (9/1 実施)	838 人 (5 通宛先なし)	253 人
アンケート方法	郵送	会場配布	会場配布	郵送	メール発信
アンケート用紙	594 枚	31 枚	60 枚	838 枚	メール発信
アンケート作成	農政課	農政課	農政課	農政課	農政課
アンケート回収	農政課	農政課	農政課	農政課	市政情報課
回収数	281 枚 (47.3%)	31 枚 (100%)	60 枚 (100%)	594 枚 (70.9%)	206 枚 (81.4%)
回収数	372 枚 (54.3%)			594 枚 (70.9%)	206 枚 (81.4%)
集計結果集約	奈良女子大学の青木先生に依頼				農政課
結果発表場所	検討部会にて	検討部会にて	検討部会にて	検討部会にて	HP 上にて
お礼状 8 月 24 日発送	594 通	—	—	838 通	—

※一般向け・農家向け 8 月 10 日発送 (8 月 26 日期限)

※8 月 24 日に返送のお礼と未回答者への催促のはがきを送付

※市政モニターアンケート期間 平成 28 年 8 月 15 日～平成 28 年 8 月 28 日

「農業栽培の支援に関するアンケート」回答

資料2

問 1: 性別をお教えてください。該当するところに☑を入れてください(複数選択不可)

問1: 性別		
	実数	割合
男性	159	42.9
女性	212	57.1
その他	0	0.0
未回答	0	0.0
合計	371	100

問:2 年齢をお教えてください。該当するところに☑を入れてください(複数選択不可)

問2: 年齢		
	実数	割合
10～20代	16	4.3
30代	40	10.8
40代	54	14.6
50代	41	11.1
60代	90	24.3
70代	120	32.3
80代以上	8	2.2
不明	2	0.5
合計	371	100

問 3: 援農(農作業を無償で手助け・支援)について機会があれば参加する意欲はおもちですか
該当するところに☑を入れてください(複数選択不可)

問3: 援農への参加意志		
	実数	割合
農業に関心があり援農を希望する。	10	2.7
機会があれば作業を手伝いたい。	114	30.7
手伝う意欲はない。	238	64.2
複数回答者	5	1.3
未回答	4	1.1
合計	371	100

以下の質問は問 3 で援農について参加の意思がある方を対象にお聞きします
 問 4: 農作業をお手伝いいただく場合は、どれくらいの頻度で支援が可能ですか
 該当するところに☑を入れてください(複数選択不可)

問4: 支援可能頻度	分母	
	実数	割合
恒常的・日常的に手伝いができる	3	2.4
時期や時間帯によるため事前の調整が必要	79	63.7
日曜や土日に限定されるため事前の調整が必要	27	21.8
その他	8	6.5
複数回答者	1	0.8
未回答	6	4.8
合計	124	100

問 5: 農作業をお手伝いいただく場合は、1 日のうち、どの程度の作用を希望されますか
 該当するところに☑を入れてください(複数選択不可)

問5: 1日のうちどの程度の作業	124	
	実数	割合
1日でもOK	9	7.3
半日程度	35	28.2
2～3時間	46	37.1
1～2時間	23	18.5
その他	4	3.2
複数回答者	2	1.6
未回答	5	4.0
合計	124	100

問 6: 現在、ご自身で栽培をされていますか。該当するところに☑を入れてください(複数選択不可)

問6: 自身での栽培	124	
	実数	割合
栽培している	13	10.5
経験があり栽培についての知識や技術はある	8	6.5
経験はあるが知識や技術はない	37	29.8
未経験	58	46.8
複数回答者	5	4.0
未回答	3	2.4
合計	124	100

問 7:栽培の技術や知識を習得された機会はなんですか 該当するところに☑を入れてください(複数選択可)

問7:栽培技術や知識を習得した機会		21
	実数	割合
農家だから	1	3.8
親戚・知人が農家だから	1	3.8
貸農園、福祉農園で栽培を経験	8	30.8
農業栽培に関する講習経験がある	0	0.0
自宅や借地で栽培経験あり(前)	9	34.6
自宅や借地で栽培経験あり(今回)	5	19.2
体験農業に参加	1	3.8
その他	1	3.8
合計	26	100

問 8:栽培経験のある作物は何ですか 該当するところに☑を入れてください(複数選択可)

問8:栽培経験がある作物		問8:栽培経験がある作物			
	実数	割合			
米	2	0.7	じゃがいも	10	0.7
キャベツ	7	2.3	かぼちゃ	5	2.3
ブロッコリー	7	2.3	オクラ	13	2.3
カリフラワー	5	1.7	ずいき	1	1.7
レタス	9	3.0	若ごぼう	1	3.0
はくさい	8	2.6	サトイモ	6	2.6
水菜	7	2.3	たまねぎ	12	2.3
小松菜	7	2.3	にんじん	8	2.3
しろな	4	1.3	にんにく	5	1.3
菊菜	10	3.3	枝豆	4	3.3
ハウレン草	8	2.6	そらまめ	8	2.6
なたねな	2	0.7	三度豆	7	0.7
ベビーリーフ	2	0.7	えんどう	9	0.7
トマト	16	5.3	きぬさや	5	5.3
きゅうり	17	5.6	ネギ	11	5.6
なす	13	4.3	わけぎ	6	4.3
ピーマン	11	3.6	いちご	5	3.6
とうがらし	5	1.7	ぶどう	1	1.7
スイートコーン	2	0.7	いちじく	4	0.7
かぶら	5	1.7	みかん	3	1.7
大根	10	3.3	もも	0	3.3
ラディッシュ	6	2.0	キウイ	1	2.0
さつまいも	9	3.0	花	5	3.0
			合計	302	100

問 9:手伝っていただける作業はどんな作業ですか、可能な作業について、該当するところに☑を入れてください(複数選択可)

問9:手伝うことができる作		124
	実数	割合
耕運	16	4.8
田植え	15	4.5
種まき	44	13.3
草刈	57	17.3
稲刈り	14	4.2
水やり	57	17.3
収穫	69	20.9
荷揃え	53	16.1
その他	5	1.5
合計	330	100

問 10:農作業で機械操作できるものがあれば、該当するところに☑を入れてください(複数選択可)

問10:操作できるもの		124
	実数	割合
耕運機	10	23.3
トラクター	6	14.0
田植え機	3	7.0
稲刈り機	5	11.6
草刈機	14	32.6
その他	5	11.6
合計	43	100

問 11:農作業をお手伝いいただく場合は個人参加ですか、それともグループ・団体での参加になりますか 該当するところに☑を入れてください(複数選択不可)

問11:参加形態		124
	実数	割合
個人参加	76	61.3
個人でも複数でも	31	25.0
グループや団体	2	1.6
未回答	15	12.1
合計	124	100

問 12:手助けが欲しい農家と、手助けしたいグループの双方が情報を登録して、登録された情報をもとに連絡を取り合い、双方と一緒に農作業をするシステムがあれば、利用されますか
該当するところに☑を入れてください(複数選択不可)

	問12:農作業システムの必要性	
	実数	割合
利用する	66	53.2
使用しない	39	31.5
未回答	19	15.3
合計	124	100

「耕作実態調査」回答

資料3

問 1: このアンケートにご記入いただく方の性別をお教えてください。該当するところに☑を入れてください
(複数選択不可)

問1: 性別		
	実数	割合
男性	483	83.1
女性	98	16.9
その他	0	0.0
合計	581	100

問 2: このアンケートにご記入いただく方の年齢をお教えてください。該当するところに☑を入れてください
(複数選択不可)

問2: 年齢		
	実数	割合
10～20代	0	0.0
30代	3	0.5
40代	22	3.8
50代	87	15.0
60代	202	34.8
70代	162	27.9
80代以上	105	18.1
合計	581	100

問 3: 農地面積は何アールですか □に数字をご記入ください(1 アール=100 m²≒30 坪)

問3: 農地面積は何アールですか		
	実数	割合
1a以下	18	3.1
1a～5a以下	100	17.2
5a～10a以下	108	18.6
10a～20a以下	141	24.3
20a～50a以下	125	21.5
50a～100a以下	40	6.9
100a～150a以下	5	0.9
150a～200a以下	4	0.7
200a～	23	4.0
未回答	17	2.9
合計	581	100

581 人の面積
合計が 50000a
以上になって
いる
a (アール) の
集計となって
いないのでは

問4:現在、農地の何割で栽培されていますか □に栽培されている割合を数字(10~0)でご記入ください

問4:栽培面積の割合		
	実数	割合
1割未満	22	3.7
1割以上2割未満	9	1.5
2割以上3割未満	7	1.2
3割以上4割未満	7	1.2
4割以上5割未満	20	3.4
5割以上6割未満	22	3.7
6割以上7割未満	23	3.9
7割以上8割未満	44	7.4
8割以上9割未満	55	9.3
9割以上10割未満	40	6.7
10割	284	47.8
その他	61	10.3
合計	594	100.0

問5:農作業は日頃何人で作業していますか 該当する年代別の□に人数をご記入ください

問5:農作業年齢別(実数)						
	0人	1人	2人	3人	4人以上	空白
10代~20代	569	5	1	1	0	5
30代	546	24	7	0	0	4
40代	520	43	10	0	2	6
50代	466	90	20	1	2	2
60代	344	176	47	6	3	5
70代	386	137	45	3	5	5
80代以上	466	100	8	0	0	7
合計	3297	575	138	11	12	34

問6:耕作される上で、誰かに手助けを頼んでいますか 該当するところに☑を入れてください(複数選択不可)

問6:農作業で助けを頼んでいるか		
	実数	割合
頼んでいる	250	43.0
頼んでいない	318	54.7
未回答	13	2.2
合計	581	100

→頼んでいる場合は、誰に頼まれていますか 該当するところに☑を入れてください(複数選択可)

問6: 頼んでいるのは誰か		
	実数	割合
親戚・知り合い等	191	71.8
農協	40	15.0
NPO法人、ボランティア団体	1	0.4
その他	34	12.8
合計	266	100

問 7:もし、農産物を栽培される上で、手助けをする仕組みや制度が利用できれば使いたいと考えますか 該当するところに☑を入れてください(複数選択不可)。

問7: 手助けする仕組みを利用したいか		
	実数	割合
利用したい	180	31.0
利用したいと思わない	370	63.8
未回答	31	5.2
合計	581	100

→利用したい場合は、手伝いに来られる方はどんな方であれば、利用されますか、該当するところに☑を入れてください(複数選択可)

問7: 誰にお願いしたいか		
	実数	割合
農作業をよく知っている人	120	49.4
経験はないが指示通りに作業す	87	35.8
経験のない大学生	17	7.0
何らかの障害があるが、ある程度	19	7.8
合計	243	100

問 8:手助けが欲しい作物は何ですか 該当するところに☑をご記入ください(複数選択可)

問8: 手助けが欲しい作物		
	実数	割合
米	148	43.7
野菜	141	41.6
花	27	8.0
いちじく、ぶどう等の果樹	17	5.0
その他	6	1.8
合計	339	100

問 9: 手伝ってほしい作業は何ですか 該当するところに☑をご記入ください(複数選択可)

問9: 手伝って欲しい作業		
	実数	割合
耕運	83	12.0
田植え	87	12.6
種まき・苗植え	54	7.8
草刈り・草ひき	160	23.2
水やり	67	9.7
稲刈り	105	15.2
収穫	87	12.6
荷揃え、包装、出荷作業	28	4.1
その他	19	2.8
合計	690	100

問 10: 将来、農業を引き継ぐ後継者はいますか 該当するところに☑を入れてください(複数選択不可)

問10: 現在の後継者の有無		
	実数	割合
現在、農業を継承している	80	13.8
農業を継ぐ意欲を持っている後継者がいる	163	28.1
後継者はいない(もしくは後継者はいるが継承してくれない)	298	51.3
未回答	40	6.9
合計	581	100

問 11: 後継者の有無にかかわらず、将来あなたの地域で農地の借り手・担い手があれば、農地を貸してもいいですか 該当するところに☑を入れてください(複数選択可)

問11: 農地を貸してもよいか		
	実数	割合
市民農園として運営が可能であれば検討する	115	17.5
農業に意欲ある担い手があれば貸してもいい	88	13.4
今のところは、貸す気持ちはない	337	51.2
将来的には農業はやめたい	118	17.9
合計	658	100

タイトル	農業就培の支援に関するアンケート
概要	現在、加齢・ケガ・病気等により定植・収穫・出荷時期等に農作業が困難になる農家が増加しています。その中で、農業に関心があり農家の支援をしたい市民・消費者が、有効に農家・農業を支援するシステムの構築により、生産者と市民・消費者が農に携わり、農地を守り、育てる施策が重要であると考えています。その施策の活用に向けて、無償による援農(農家が行う農作業を支援すること)に関する状況や思いを把握するためのアンケートです。

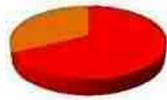
対象者数:253人 回答者数:206人 回答率:81.4%

1. 会員番号を入力してください。
(会員番号はメール本文に記載しています) (必須。3文字。半角英数(記号))

2. 性別を教えてください。(必須)

回答	選択人数	%
男性	67人	32.52%
女性	139人	67.48%

女性 67.5%
男性 32.5%



3. 年齢を教えてください。(必須)

回答	選択人数	%
20代	13人	6.31%
30代	53人	25.73%
40代	61人	29.61%
50代	42人	20.39%
60代	24人	11.65%
70代以上	13人	6.31%

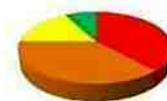
40代 29.6%
30代 25.7%
50代 20.4%
60代 11.7%
20代 6.3%
70代以上 6.3%



4. 援農に参加したいと思いますか。(必須)

回答	選択人数	%
農業に関心があり、参加したい	16人	7.77%
機会があれば参加したい	79人	38.35%
農業に関心があるが、参加はできない	75人	36.41%
参加したくない	36人	17.48%

機会があれば参加したい 38.4%
農業に関心があるが、参加はできない 36.4%
参加したくない 17.5%
農業に関心があり、参加したい 7.8%



援農について「参加したい」との回答が46.1%もあり、農業にかかわることに対して、多くの方に前向きな姿勢が感じられた。

5. 問4で「農業に関心があり、参加したい」「機会があれば参加したい」と回答された方に質問です。
援農について、どれくらいの頻度で参加が可能ですか。

回答	選択人数	%
恒常的・日常的に手伝いができる	1人	1.05%
時期や時間帯等によるため、事前の調整が必要	51人	53.68%
土曜や日曜等に限定されるため、事前の調整が必要	35人	36.84%
その他	5人	5.26%
未回答	3人	3.16%

時期や時間帯等によるため、事前の調整が必要 53.7%
土曜や日曜等に限定されるため、事前の調整が必要 36.8%
その他 5.3%
未回答 3.2%
恒常的・日常的に手伝いができる 1.1%



「農業に関心があり、参加したい」「機会があれば参加したい」と回答された95人中、90.5%の方が季節、時間、曜日などの何らかの制限を設けておられる。

6. 問4で「農業に関心があり、参加したい」「機会があれば参加したい」と回答された方に質問です。
援農について、1日あたりどれくらいの時間で作業が可能ですか。

回答	選択人数	%
1日	9人	9.47%
半日	31人	32.63%
2~3時間	42人	44.21%
1時間	7人	7.37%
その他	5人	5.26%
未回答	1人	1.05%

2~3時間 44.2%
半日 32.6%
1日 9.5%
1時間 7.4%
その他 5.3%
未回答 1.1%



「農業に関心があり、参加したい」「機会があれば参加したい」「参加したい等」と回答された95人中、1日が可能の方の割合より、半日、2~3時間を選ぶ割合が多く、農家さんの要望の聞き取りが必要。

7. 問4で「農業に関心があり、参加したい」「機会があれば参加したい」と回答された方に質問です。援農について、どのような種類の作業が可能ですか。(複数回答可) (14個以内)

回答	選択人数	%	上位 6項目のみ色分け表記
耕運(機械作業の補助)	21人	5.53%	
田植え(機械作業の補助)	24人	6.32%	
種まき・苗植え	50人	13.16%	
草刈り・草ひき	33人	8.68%	
稲刈り(機械作業の補助)	16人	4.21%	
水やり	50人	13.16%	
収穫	59人	15.53%	収穫 15.5%
荷揃え・包装・出荷	53人	13.95%	荷揃え・包装・出荷 14.0%
耕運機(機械作業)	12人	3.16%	種まき・苗植え 13.2%
トラクター(機械作業)	18人	4.74%	水やり 13.2%
田植え機(機械作業)	14人	3.68%	草刈り・草ひき 8.7%
稲刈り機(機械作業)	12人	3.16%	田植え(機械作業の補助) 6.3%
草刈り機(機械作業)	10人	2.63%	
その他	3人	0.79%	
未回答	5人	1.32%	

「農業に関心があり、参加したい」「機械があれば参加したい」と回答された95人中、多くの方が機械作業では無く、手作業で行う作業が可能であると回答されており、問6と同じように農家さんの要望の聞き取りが必要。

8. 問4で「農業に関心があり、参加したい」「機会があれば参加したい」と回答された方に質問です。援農について、個人かグループ・団体どちらでの参加になりますか。

回答	選択人数	%	
個人	68人	71.58%	個人 71.6%
グループ・団体	6人	6.32%	どちらでも 17.9%
どちらでも	17人	17.89%	グループ・団体 6.3%
未回答	4人	4.21%	未回答 4.2%

「農業に関心があり、参加したい」「機械があれば参加したい」と回答された95人中、89.5%が、「個人」又は「どちらでも」と答えておられ、作業内容によっては、複数の援農者を確保しなければならない。

9. 問4で「農業に関心があり、参加したい」「機会があれば参加したい」と回答された方に質問です。支援が必要な生産者と、農家の支援をしたい市民・消費者が情報を登録し、双方が連絡を取り合えるシステムがあれば利用しますか。

回答	選択人数	%	
利用する	82人	86.32%	利用する 86.3%
利用しない	9人	9.47%	利用しない 9.5%
未回答	4人	4.21%	未回答 4.2%

援農を進めていくには、援農を手助けするシステムがあれば、86.3%の方が利用すると回答されています。

10. 問4で「農業に関心があるが、参加はできない」「参加したくない」と回答された方に質問です。参加できない、参加したくない理由を教えてください。(複数回答可) (4個以内)

回答	選択人数	%	
農業に関心がないから	15人	10.00%	参加する時間がないから 38.0%
参加する時間がないから	57人	38.00%	体力に自信がないから 28.7%
体力に自信がないから	43人	28.67%	未回答 12.0%
その他	17人	11.33%	その他 11.3%
未回答	18人	12.00%	農業に関心がないから 10.0%

「農業に関心があるが、参加はできない」「参加したくない」と回答された111人中、多くの方が、「参加する時間がない」「体力に自信がない」と回答されています。

11. 農業栽培の経験がありますか。(必須)

回答	選択人数	%	
農業栽培の経験があり、技術・知識がある	3人	1.46%	農業栽培の経験がない 76.2%
農業栽培の経験があるが、技術・知識はない	46人	22.33%	農業栽培の経験があるが、技術・知識はない 22.3%
農業栽培の経験がない	157人	76.21%	農業栽培の経験があり、技術・知識がある 1.5%

今回のアンケートでは、農業栽培の経験者が23.8%となり、4人に1人の割合であることがわかりました。

12. 問11で「農業栽培の経験があり、技術・知識がある」と回答された方に質問です。
技術・知識を習得された機会はなんですか。(複数回答可) (8個以内)

回答	選択人数	%
家が農家である	1人	12.50%
親戚・知人が農家である	1人	12.50%
貸農園・福祉農園で経験したことがある	2人	25.00%
農業栽培に関する講習を受けたことがある	1人	12.50%
自宅や借地で経験したことがある(畝)	2人	25.00%
自宅や借地で経験したことがある(プランター)	1人	12.50%
体験農業に参加したことがある	0人	0%
その他	0人	0%

貸農園・福祉農園で経験したことがある 25.0%
自宅や借地で経験したことがある(畝) 25.0%
家が農家である 12.5%
親戚・知人が農家である 12.5%
農業栽培に関する講習を受けたことがある 12.5%
自宅や借地で経験したことがある(プランター) 12.5%



13. 問11で「農業栽培の経験があり、技術・知識がある」と回答された方に質問です。
栽培経験のある作物はなんですか。(複数回答可) (47個以内)

回答	選択人数	%
米	0人	0%
キャベツ	2人	3.17%
ブロッコリー	2人	3.17%
カリフラワー	0人	0%
レタス	0人	0%
白菜	2人	3.17%
水菜	2人	3.17%
小松菜	2人	3.17%
シロ菜	1人	1.59%
菊菜	1人	1.59%
ホウレン草	2人	3.17%
菜種	0人	0%
ベビーリーフ	0人	0%
トマト	3人	4.76%
キュウリ	3人	4.76%
ナス	3人	4.76%
ピーマン	3人	4.76%
トウガラシ	2人	3.17%
スイートコーン	2人	3.17%
カブ	1人	1.59%
ダイコン	3人	4.76%
ラディッシュ	0人	0%
サツマイモ	3人	4.76%
ジャガイモ	3人	4.76%
カボチャ	0人	0%
オクラ	2人	3.17%
ずいき	0人	0%
若ごぼう	0人	0%
里芋	3人	4.76%
タマネギ	3人	4.76%
ニンジン	3人	4.76%
ニンニク	2人	3.17%
枝豆	1人	1.59%
ソラマメ	1人	1.59%
三度豆	0人	0%
エンドウマメ	2人	3.17%
キヌサヤ	1人	1.59%
ネギ	1人	1.59%
ワケギ	0人	0%
イチゴ	2人	3.17%
ブドウ	0人	0%
イチジク	0人	0%
ミカン	0人	0%
モモ	0人	0%
キウイ	0人	0%
花	2人	3.17%
その他	0人	0%
未回答	0人	0%

上位 6品目のみ色分け表記

トマト 4.8%
キュウリ 4.8%
ナス 4.8%
ピーマン 4.8%
ダイコン 4.8%
ジャガイモ 4.8%



<p>14.「農業栽培の支援」についてご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にご記入ください。(1000文字以内)</p> <p>回答(一部要約・抜粋)</p> <p>回答者: 81人(39.32%) 未回答: 125人(60.67%)</p>
<p>農業従事者も高齢化になり人手不足が深刻な状態。若い世代に引継いでいかなければならない案件。まずは若い世代に興味を持ってもらうことが大事である。支援という形でいきなり農業に携わる事に抵抗はあるかも知れないが、まずは体験できる環境あればよいのではないかな。</p>
<p>援農という言葉やニーズを初めて知ったのでなんの知識もないですが、農業高校や農学部などの学生が参加できるような、教育機関との連携はどうか一と思いました。</p>
<p>農業栽培の経験が無いので、具体的に何を手伝えるか分からないが、機会があればやってみたい。気軽に参加できるようなシステムなら、若い人や主婦も参加しやすいと思う。「支援」となると堅苦しいかも。</p>
<p>小学校高学年・中学・高校での授業にとり入れれば良いと思う。そうすればお米・野菜のありがたみがわかり、自分たちで育てたものは苦手なものでも食べてみようとするのではないのでしょうか。</p>
<p>無償で援農はなかなか難しいのでは？市が少しでも援農希望者に資金を支給すれば援農希望者が増えるのでは</p>
<p>生活環境の見直しで体を動かし汗をかき栽培の楽しみが子供から老人まで共有できる。自然の恵み農業栽培は大切な人生教育の起源となる様に思います。現代のインターネット検索からの実体験へと出来れば健康で魅力ある農業栽培の支援と成る様に思います。</p>
<p>市政だよりで呼びかけたらどうか。援農を必要としている実態も資料として載せないかと回答しにくい。全くのボランティアなのか、収穫物のおすそ分けがあるのかなども。不親切なアンケートだ。</p>
<p>農業栽培の支援と言う言葉自体初めて知りました。こういう機会がなければ知らないままだと思うので、一般市民にも情報提供して知ってもらうことがまず必要ではないかと思えます。</p>
<p>とてもいい制度だと思います。農業に関心のある人は多いと思いますが、実際に個人の家で栽培ができる人は限られています。自転車を通えるくらいの距離に農家があれば助かるので、農家も支援者も同じ位たくさんの方の登録を望みます。作業が無償なのは構わないですが、とれた作物を少しだけ譲って頂ければ嬉しいです。援農システム実行の際には、そのようなギブアンドテイクの制度もきっちりと設けておいてほしいです。</p>
<p>農業は、拘束時間が長く、つらい作業が多い仕事で、支援したくてもなかなか難しいのではないかと思います。ですので、定植から出荷まで一連の作業を行う方と、定植のみ、出荷のみという風に作業を分けて行う方に分ければ、多くの方に支援してもらいやすくなるのではないかと思います。</p>
<p>援農システムを構築する事は良いことと思いますが、無償ではシステムの維持・運営が困難だと思います。善意だけに頼るのではなく、双方の利益に繋がる方法が必要だと思います。</p>
<p>実家は兼業農家で、現在も実家と嫁ぎ先では畑で農作物は作っているのですが、農業がいかに大変で生半可な気持ちで出来るものではないと思っています。なので無償ボランティアとするものではないと思います。収穫出来た物で支払うとかにしたいのでしょうか。</p>

援農には賛成だが、行政が生産者と市民・消費者の間に立って、使いやすいシステムを構築する必要があるのではと考えます。無償だけでは参加しにくい部分もあるので、作った作物を貰えるような仕組みも取り入れたらよいのではとの意見にはこれから考えていかなければならないと思います。

【総括】

多くの市民の方々が、援農だけでなく、農業全体について興味を持たれていることがわかりました。何らかの形で農業に参加したいとの思いが伝わってきました。東大阪市の農業従事者も、他の産業と同じかそれ以上に高齢化となっています。このままでは、田畑を持っていても、農作物の栽培が出来にくくなっています。今回のアンケート結果を元に、これからの東大阪市の都市農業のあり方について、考えていきたいと思えます。

※「%」は小数点第3位を切り捨てしているので、合計値に+/-0.1%の誤差が生じる場合があります。

「平成 27 年度中小企業振興施策実施状況報告」に寄せられた
ご意見の概要と本市の考え方

	意見の概要	市の考え方
1	<p align="center">【モノづくりワンストップ事業】</p> <p>指標①について、商工会議所等と連携し、企業情報を共有すればよいのでは。 指標②について、受注拡大などの経済的効果を加えてはどうか？</p>	<p>毎月1回、東大阪市内のコーディネーターや支援機関が集まり意見交換をする場がありますが、今後は、商工会議所との連携を強め、きめ細やかな支援をできるよう努めてまいります。</p> <p>受注拡大については、市内企業だけでなく、大阪市内等の周辺自治体で発注元となりそうな企業に対しても、東大阪市内の企業をアピールしていくことにより、受注の増加を目指すとともに、市内企業に対しては、これまでより更に企業訪問をし、市としての企業データベースの充実化を図ってまいります。</p>
2	<p align="center">【東大阪技術交流プラザ事業】</p> <p>指標②について、自社のホームページがない市内企業にとって、同事業が果たす役割は大きい。登録企業増加を目指してほしい。</p>	<p>技術交流プラザについては、平成29年3月のリニューアルを予定しており、その中で登録企業数の増加を1つの目標とし進めてまいります。</p> <p>とりわけ現行の課題の1つとして、申込みまではするが、実際の登録作業は行わない企業が多いことより、リニューアル時には、いかに簡単に登録できるかを意識し、登録率(登録者数/申込者数)の改善を目指してまいります。</p> <p>あわせて、技術交流プラザの魅力やメリットを積極的に周知し、小規模企業を中心に登録企業の増加を図ってまいります。</p>

【様式1】

所属	経済部 モノづくり支援室	No.	2							
事業名	モノづくりワンストップ推進事業	平成27年度 目標達成度	B							
事業概要	販路系コーディネーターがモノづくりの現場へ赴き、販路開拓支援を行うとともに、市等の施策情報を提供する。また、技術系コーディネーターが発注案件を市内モノづくり企業へとつなぎ、受注拡大を図る。	H27 決算	21,331千円	H28 予算	25,368千円	振興 施策	3	4	7	8
第3次実施計画体系										
部	節	取り組みのあらまし								
4	24	3								
指標①	指標②	相談対応・企業訪問件数								
指標の 説明・計算式	指標の 説明・計算式	/								
H27	H27達成度	H27	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H27達成度	
目標①	5,550件	5,550件	5,550件	5,550件	目標②					
実績①	5,147件	-			実績②					
事業実績 (平成27年度)	各コーディネーターが市内企業を訪問し、市・府・国の施策を紹介、申請サポートをするとともに企業の抱える課題・ニーズの掘り起こしを行い、適切な支援機関へつなぐ等のサービスを実施。また、さまざまな発注案件に対応した企業を紹介した。									
改善すべき点	市内企業の強みとなる技術を出題すべく、さまざまな企業情報の入手のため、これまで相談のなかった企業や小規模企業に対して積極的にアプローチをかける。 コーディネーターの今後の活動の指標となるよう、訪問企業にアンケートをとり、改善をはかる。									
改善すべき点	市内企業の強みとなる技術を通して、さまざまな企業情報の入手のため、これまで相談のなかった企業や小規模企業に対して積極的にアプローチをかける。 コーディネーターの今後の活動の指標となるよう、訪問企業にアンケートをとり、改善をはかる。									

【様式1】

所属	経済部 モノづくり支援室	No.	8						
事業名	東大阪市技術交流プラザ事業	平成27年度 目標達成度	A						
事業概要	市内製造業の情報発信・販路開拓を支援するため、企業検索などができるサイト「東大阪市技術交流プラザ」を運営する。	H27 決算	6,700千円	H28 予算	5,746千円	振興 施策	3	10	
第3次実施計画体系									
部	節	取り組みのあらまし							
4	21	3							
4	24	3							
指標①	指標②	サイト全体のページビュー数							
指標の 説明・計算式	指標の 説明・計算式	/							
H27	H27達成度	H27	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H27達成度
目標①	740,000件	760,000件	780,000件	780,000件	目標②	1,180件	1,220件	1,260件	A
実績①	651,668件	-			実績②	1,197件	-		
事業実績 (平成27年度)	未登録企業に対し積極的に登録の呼びかけを行った結果、132社から新規申し込みがあった。 ・平成28年度は未開催、平成29年度は1回の開催であった「市内企業向けの技術交流プラザ登録セミナー」を3回開催し22社に参加いただいた。 ・1件でも多くの発注案件を呼び込むため、展示会への出展やインターネットを活用した広告を実施。主にgoogleでの検索連動型広告を実施した結果、広告掲載期間中は通常月に比べ、問い合わせ件数が2倍に増えた。								
改善すべき点	・132社から新規申し込みがあったが、登録に至った件数は58社であり、登録率が低い。 ・アクセス数が減少傾向にある。 ・直帰率が74%と高く、ホームページにたどり着いても十分に見られていない可能性がある。								
改善すべき点	技術交流プラザの更新を通じて、以下の3点の改善を目指す。 ・掲載情報の量と質の改善 ・ウェブサイトの利用者数増加 ・利用者が求める情報のみつけやすさ、探しやすさの向上								

東大阪市中小企業振興会議委員

No.	氏名	役職等		役職
1	阿児 加代子	大阪府社会保険労務士会東支部		
2	飯島 茂春	株式会社日本政策金融公庫	東大阪支店長兼国民事業統括	
3	茨木 延夫	東大阪市小売商業団体連合会	会長	
4	上田 秀樹	大阪樟蔭女子大学健康栄養学部 健康栄養学科	准教授	部会長
5	大西 由起子	東大阪観光協会	会長	
6	小野 栄治	公募委員		
7	加賀 美孝	株式会社商工組合中央金庫	東大阪支店長	
8	角本 律子	東大阪市産業創造勤労者支援機構	常務理事	
9	糸野 博行	大阪商業大学総合経営学部	教授	副会長 部会長
10	倉貫 智之	東大阪市大型小売店舗連絡協議会	会長	
11	高島 政康	東大阪市工業協会	会長	
12	高田 克己	公募委員		
13	田中 聡一	公募委員		
14	谷川 佳央	グリーン大阪農業協同組合	常務理事	
15	中嶋 嘉孝	大阪商業大学総合経営学部	准教授	部会長
16	西田 尚子	ハローワーク布施	所長	
17	西松 あゆみ	西松税理士・中小企業診断士事務所	所長	
18	文能 照之	近畿大学経営学部	教授	会長
19	宮野 利恵子	公募委員		
20	弓場 秀樹	東大阪商工会議所	東支所所長	
21	脇田 恒夫	公募委員		

※五十音順

中小企業振興会議スケジュール(案)

資料 3

